

子どもたちのブックトーク

東京学芸大学附属小金井小学校

中山美由紀

2008. 12. 10

ブックトークとは

定義： テーマにそった さまざまな本を、
つながりを考えながら 紹介をすること

目的：本の魅力や楽しさを伝える →読んでみたい

効果：様々なジャンル

→子どもたちの個性・多様な視点

様々なグレード

→子どもたちの読解力

埋もれている本に光をあてる

ブックトークの方法 1

- テーマ 季節・行事 学習関連 自由に選ぶ
→ 単語にしない。読みたくなる工夫を
- 選書 愛着のある本 手に取られにくい本
 グレードにこだわらない
 ジャンルは多様に
- 流れ 「つなぎ」 読み込んでいくと ひらめく
- 工夫 音 匂い 大きさ 現物 写真 クイズ

ブックトークの方法2 紹介の手法

- あらすじを話す
- 登場人物、著者や画家 を 紹介する
- 全文、一部、目次、あとがき を 紹介する
- ストーリー・テリングをいれる
- 周辺情報を紹介、説明をする
- 表紙の絵、挿絵(写真、図など)を見せる

子どもたちのブックトーク

グループ→ひとり

- 読書の記録 キーワードをつける
- 見本モデルを聞く イメージをもつ
- トークの相手を意識する
- 選書には時間をかける
- トークメモ つながりメモ
- Show & Tell ⇒ 交流会の設定
- 子ども同士の評価 発表の仕方や内容 紹介の本を読む
- リストやポスターに残す 【環境】掲示や展示 ブックリスト

子どもたちのブックトーク

本を読むも伝えるのも楽しい

「今まで、どうやって本を読んだらいいかわからなかったんだ。本の読み方というか、読むのが楽しいって わかりました。」

「初めて、1冊本を読み通しました!!」

「気に入った本のページと行をメモしながら読み進めていくと、普段何げなく読んでいる時とは違い、なにげないフレーズで涙したり、怒ったり、本にのめり込んでいました。」

→感想文とBTとどっちがいい？ 99%BTだった。S高校